

地元農家の女性パワーが輝く、 「きみまち阪」の“六次産業”カフェ始動 きみ恋カフェ

生産、調理、接客、すべての工程に、地域に暮らす女性たちの愛情が詰まったカフェが今春オープン。来訪者を癒す人気スポットとしての期待が高まっている。

専門家派遣事業を活用し“接客マナー”を習得

能代市二ツ井町きみまち阪県立自然公園内にある「きみ恋カフェ」は、平成25年に能代市が開設した休憩所だ。今年度は、地元の直売所で野菜や加工品を販売する女性グループが運営を受託、メニューを一新し4月20日に営業を開始した。グループのメンバーは、家庭で来客を迎える経験はあっても飲食業の接客となると未経験者ばかり。そんなとき新聞であきた企業活性化センターの専門家派遣事業の存在を知り、プロの接客マナー講師の指導を受けた。研修を通して、具体的な言葉遣いや動作はもちろん、今まで気づかなかったことを多く学んだ。「接客の基本について、知っているつもりだったことについても指導いただきました。未経験者にはとても役立つものでした」と、店長も務める安井昌子代表は話してくれた。

地場食材に手間ひまかけて “ここにしかない価値”を提供

同店の最大の魅力は、一新したランチメニューにある。自分たちで生産した地元ならではの食材を用い、惜しみない手間ひまをかけて提供している。「ななくらランチ」の薬膳風焼きカレーには、健康食品として注目される「キクイモ」と、特産の「白神ネギ」が入っている。「さくらランチ」の米粉パンには、同公園内の桜から採取した天然酵母「秋田美桜酵母」を自家培養して使用。



「ななくらランチ」に入っている「白神ネギ」は、運営メンバー全員が栽培している能代市の重点作物の一つ。



ウッドデッキからは、パワースポットとされる「七座山(ななくらやま)」と米代川が一望できる。大きく蛇行している川の景観が目に見え込んでくる。



安井代表(写真中央)と運営メンバー。お互いに“好きなことを言い合える”仲間である。一人一人個性がありながら、チームワークの良いところが強み。

事業の解説 創業や経営の向上を図ろうとする中小企業者等が抱える様々な課題に対し、当センター登録の民間専門家を派遣し、課題解決のための診断・助言を実施します。
【事業の活用・お問い合わせについて】
あきた企業活性化センター／企画・総合相談担当まで。



切り立った断崖絶壁の屏風岩に、桜、ツツジ、紅葉が彩りを添える風景が美しいきみまち阪県立自然公園。「きみ恋カフェ」は公園内の第一広場であり、真向かいには「きみまち恋文ギャラリー」がある。

さらに、桜の葉の自家製塩漬けを刻み入れて香りを付けている。「きみそばランチ」のそばは、栽培も製粉も自前、手打ちの二八そばだ。時に寝る間を惜しんで仕込みをすることもあると言う。「時間と労力が要り、量産もできないけれど、そこに希少価値がある」と、安井代表は意欲をのぞかせる。

魅力あふれる公園内の“語らいの場”をめざす

運営メンバーの郷土愛と向上心は熱い。安井代表によると、勉強しよう、よくなるよという意識を持った仲間であるとのこと。成長の糧にするために、率直な意見や感想を積極的に収集している。安井代表の願いは、若い人たちにもゆったりと語り合える場として立ち寄ってもらい、きみまち阪の魅力を再発見してもらうことだ。地域の資源を、地域の女性たちによって輝かせるビジネスモデルとも言える「きみ恋カフェ」。来訪者の満足度アップに貢献するにちがいない。

きみ恋カフェ

〒018-3102
秋田県能代市二ツ井町小繫字中島
「きみまち阪県立自然公園第一広場」地内
Tel 0185-73-2130
営業日／4月～11月中旬
定休日／火曜日(6、7月は火・水曜日)
営業時間／10:00～15:00